

# 内視鏡センター

消化器内科部長兼  
内視鏡センター長

高谷  
宏樹



## 高谷宏樹 Profile

■略歴  
1995年 滋賀医科大学卒業  
2001年 社会保険滋賀病院消化器内科医員  
2004年 誠光会草津総合病院消化器内科医長  
2007年 大津市民病院消化器内科医長  
2014年 公立甲賀病院消化器内科部長・  
内視鏡センター長  
2017年 りんくう総合医療センター消化器内科部長  
兼内視鏡センター長

■資格等  
日本内科学会認定内科医・指導医  
日本消化器病学会専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本消化器がん検診学会認定医  
日本ヘリコバクターピロリ学会認定医  
日本がん治療認定医機構がん認定医  
研修指導者講習会修了、JATECコース修了  
緩和ケア講習会修了、医学博士



▶▶ 改装後の検査室(2021年9月撮影)

▶ リハビリ室(2021年9月撮影)



内視鏡常勤医師不在が長く続き、私が2017年1月に赴任しました。4年半程度がたった今振り返ると「すごいことになってしまった」と言ったのを思い出します。

まず内視鏡センターを見て愕然としました。20年前私が研修医だったころの内視鏡室の状態でした。検査ベッドもいつのものかと思うほど古いものでした。

医師については毎日非常勤医師がそれぞれの方法で内視鏡の検査をされていました。ほぼスクリーニング検査、たまに大腸ポリプ切除している状態でした。内視鏡室の看護スタッフも放射線科の看護師に来てもらっている状態でアップデートされている状態ではありませんでした。

内視鏡室、検査機器、内視鏡医師、看護スタッフどれをとっても最善に内視鏡室を運営できる状態とは言えません。さらに救命センターや救急外来からは胆管炎や胆管損傷や膵管損傷のERCPの依頼や吐血下血の止血依頼などもあり、ベストな内視鏡医療を行うには状況の改良が必要と考えました。

そこで①内視鏡センターの改装、②内視鏡検査機器の大幅な更新、③非常勤医師の教育と意識改革、④内視鏡看護スタッフの教育と意識改革を行うことが急務と考えました。

①については病院側も検討していただいていたが、なかなか施工されず、4年後から工事開始、本年度10月から新内視鏡センターの稼働となりました。

②内視鏡検査機器については積極的に機器整備を行っていただきました。

③私自身、非常勤医師の内視鏡レベルの向上が行えました。また非常勤医師によっては特殊処置に秀でた先生もおられたので内視鏡特殊処置(超音波内視鏡下瘻孔形成術など)も速やかに導入できました。また常勤スタッフも増え、彼女たちの技術の向上に伴い検査数が増加してきました。

④看護スタッフについては基本的には内視鏡室で固定の勤務をしていただけるように調整し、しばらくして外来看護師の管轄となりその中で内視鏡チームとして固定していただくことで内視鏡看護のレベルが飛躍的に向上しました。

2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の蔓延時期においては一時期は大幅に検査数が減少しましたがその後は回復してきています。非常勤医師については往来をできるだけ少なくしたいということ、常勤医師で対応できる数が増え

てきたことによりほとんどの非常勤医師については勤務を止めていただいています。

内視鏡検査・治療ではウイルスに暴露されやすく感染防御が重要視されますが、もともと内視鏡センターではスタンダードプリコーション※の概念を導入しており、それをさらに厳格に行うことにより感染防御については速やかに対応することができました。

現在、消化器内視鏡センターでは通常の上消化管内視鏡検査、検診上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、上部消化管内視鏡治療(食道静脈瘤破裂に対するEVL、EIS、胃静脈瘤破裂に対する緊急止血、食道・胃、大腸早期がんに対する粘膜下層剥離術(ESD)、大腸ポリプに対する粘膜切除術(EMR)、消化管拡張術や消化管狭窄に対するステント留置術、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、およびERCP関連手技、超音波内視鏡専用機を用いた消化管精査、胆管膵管の精査(PMN)の経過観察や膵がんスクリーニング、胆膵悪性腫瘍の精密検査)、超音波内視鏡を用いた穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)や超音波内視鏡(EUS)下穿刺でのドレナージなど小腸関連の疾患以外はすべて対応できるようになりました。

さらに本年9月に新内視鏡センターが完成し、新型ファイリングシステムとともに10月から本格稼働できるようになりました。検査室の増床(2室から3室)、鎮静内視鏡を行った際の検査後のリカバリーの増床(2床から6床、うち3床はリカバリーチェア)、内視鏡洗浄室の拡大と自動洗浄機の増設が行えました。それにより需要がどんどん増えている鎮静での内視鏡検査数を含め内視鏡検査数が大幅に増やすことが可能となりました。

私がりんくう総合医療センターに赴任して約4年と9か月ですがやっと本格的にスタートラインに立てたように思います。ここまで整備していただいたすべての先生方、および事務の方々、工事関係者の方々、今まで内視鏡センターを盛り上げてきていただいた看護スタッフの方々、放射線技師の方々、地域連携室の方々、病棟看護師の方々すべての方々に感謝申し上げます。ともに南大阪の地域の患者様のためにより良き内視鏡医療を提供していきたいと思えます。

※スタンダードプリコーション:医療・ケアを提供するすべての場所で適用される感染予防策